飯 豊 御 西 小 屋 付 近 登 山 道 整 備 参 加 記 録

目的地	燧ケ岳	期　日	平成１９年８月３１～９月２日（金～日）
山行人	笠原正雄単独参加（小国班）	特　記	飯豊御西小屋付近登山道整備及び植生復元実証実験

地　点　名	（着）～（発）		記　　事
３１日（第１日目）			
与　　板	午前 2:00 発		前夜、井上氏より後半の天気予報が悪いので出発を早めるとの TEL 有り。
天狗平ロッジ	4:30 発	曇	途中、車で追越して行った井上氏のほかに、小原女史と前泊の横山氏・高橋氏夫妻が居た。のち鈴木女史が到着し、荷分をする。大根、缶詰等をザックに加える。計７人となる。高橋夫妻は初対面、他は顔見知り。
梶川尾根へ	5:50	〃	雨ズボン着用で急登を登り始める。
楢の木曲がり	6:25～6:35	霧	花束が置かれていた。数年前に熱射病で無くなった人がいたと聞く。
カッパ着る	7:05～7:10	〃	手前の長蔵小屋直前で日焼け止めクリームを塗る。7:30 湯沢峰通過。
滝　見　場	8:05～8:10	〃	石転ビ沢が見えた。
五郎清水	8:55	〃	通過
休　　む	9:20～9:25	〃	梅花皮大滝が見えた。ハイジさんの荷重を軽くしたようだ。
梶　川　峰	9:55～10:00	〃	霧雨状態だが、杁差が見え、小屋も分かった。
扇ノ地紙	10:45	〃	この手間あたりから横山氏が足の引きつりを訴え、遅れ始める。
門内小屋	11:10～11:40	〃	稜線に出ると風が強くなる。横山氏と最後に入室。濡れたカッパ上衣を脱ぎ休む。ガスで湯を沸かしホットウイスキーを回し飲む。コーヒーで暖まる。ガス等の収納で遅くなりやや遅れて最後に小屋を出る。ギルダ池を見る。
北　股　岳	12:35	〃	相変わらず横山氏は不調。頂に着いた鴇には５人は下り始めていた。
梅花皮小屋	12:55 着	〃	本棟１階で着替えや荷物を区分けし、関さんの居る管理棟へ集まる。鍋を頂き宴会。途中下越山岳会の K と O さんが加わる。本棟２階で寝る。
１日（第２日目）			
梅花皮小屋	5:55 発	晴	起床後再び管理棟でアルファー飯とカレーで朝食。小原さんが門内小屋に泊まった後発の岳さん、竹田さんを待つことにし、６人で歩き出す。
梅　花　皮　岳	6:20		ｲｲﾃﾞﾘﾝﾄﾞｳは終わり、ｳﾒﾊﾞﾁｿｳ、ﾊｸｻﾝﾎﾞｳﾌｳが多く咲く。
烏帽子岳	6:40～6:45		休む。大日岳をバックに写真を撮り合う。雲上遥かに燧ケ岳が分かった。
天狗ノ庭	8:00～8:15		ここは後半日程の作業現場である。陽射しで暖かくなる。雨ズボンを脱ぐ。
御西小屋 午前作業	9:00 着		本山側から上がって来た方々が既に外で待機していた。濡れたものを旧小屋の礎石の上に広げ乾かす。総勢 30 名程になった。全体説明の後、数班に別れ、それぞれの作業を開始する。俺は植生復元用の種子採集を鈴木女史とする。ノガリヤスとカニツリソウの説明を受けたが、よく分からないが、とにかく前者の種採りを本山方向と水場との通路でする。昼近くになって作業を止め、皆に混じって水汲みに向かう。
ラ　ン　チ			小国班は小白布沢から上がっていた清水氏と後着の岳、竹田とで 10 名。小屋の中で、鯖水煮缶を使った素麺を頂く。こんなレシピがあるとは驚きだ。

午　後　作　業			小屋下の荒れた登山道の整備。旧小屋の土台の石を崩して、雪囲い用の板にのせたり、手で一つ一つ運ぶ。それを使って雨が降った時の水の流れを道から逃がすように堰を作って行く。
夕　　食	帰り 5:05 発	〃	外で各グループ毎に集い、食事。小国班は 10 名で小原、竹田が作った、鮭・チクワ・豆腐・野菜が入った鍋を頂く。暗くなってから小屋の２階で全員で２次会となる。１階で寝るのだが、酔ってよろめき、井上氏のガスランタンに触れ、コンクリート床に落として壊してしまった。
２日（第２日目）			
御　西　小　屋	6:20 発		
飯　豊　本　山			
宝 珠 山 ノ 肩	9:20		
門内小屋を見る	9:45		
立　ち　休　み	10:05		笹団子を食べる。
千　　本　　峰	10:30		
休 み 場 の 峰	11:15		三角点柱と雨量計マス
長　坂　清　水	12:00～12:15		
吊 橋 を 渡 る	1:10～1:25		
車　　道	1:35		
天　狗　平　P	2:05		
与　　板　　着	6:20		

【2007 年 08 月 31 日～9 月 03 日/登山道整備：梶川尾根～御西小屋/井上邦彦調査】

天候を考慮し、前夜集合時刻を 1 時間繰り上げる。当日は 3 時に起床しコンビニを経由して天狗平ロッジに向かう。ロッジには管理人の VCK、まことさん、ひまわりさん、NIY が泊まっていた。やがてオバケさんとハイジさんが到着し、荷分けを行う。私を含め総勢 7 名である。

05:48 天狗平の登山届出所を出発する。相変わらずの急坂に高度をぐんぐん稼ぐ。06:24-35 楢ノ木曲リには数年前に熱射病により此処で亡くなられた方への手向けであろう、花束が置かれてあった。梅花皮小屋の OTJ と無線で交信する。

07:03-09 休憩を取りカッパを着る。07:30 湯沢峰通過、霧雨程度で視界はない。08:04-12 滝見場で休憩。石転ビ沢が見えたが、雪渓は下部の崩壊が著しいようだ。08:42-47 休憩。

08:54 五郎清水を通過する。09:20-25 休憩、梅花皮大滝が見えた。09:31 三本カンバを通過する。この辺りから花が出てくる。オヤマリンドウ・ヤマトウバナ・エゾシオガマ・ミヤマアキニキリンソウ・ヤマハハコ・コゴメグサ。

09:57-10:02 梶川峰で休憩。雨が降っているが視界は良好で、杁差岳まで見えている。10:45 扇ノ地紙を通過する。やはり稜線に出ると風が強くなる。

11:11-40 門内小屋で休憩を取る。本棟の外ドアがなかなか開かない、開き方の説明書が貼り付けてあった。内ドアも開け閉めにこつがある。中に入ると、NEN さんが直してくれたのだろう、床が見事に綺麗になっていた。ザックを置いてカッパを脱ぐと、皆の体から湯気が上がる。吐く息も白い。オバケさんがお湯を沸かしコーヒーを作ってくれた。トイレに行った女性から、自転車のペダルが破損していたと報告があった。

ギルダ原は強い風雨に煽られながら通過する。登山中にギルダ原の語源について質問があった。藤島玄著「越後の山旅上巻 168 頁」に書かれている内容を説明したが、ここでもう一度記載しておく。「ギルダ原は小鞍部の草原で、山形県側の下にギルダノ池が見下ろされる。ギルダは米軍がつけた台風の名で、その台風難をここで避けたので命名されている」

12:35 北股岳山頂を通過し、12:52 梅花皮小屋に到着した。人数が多いので、本棟に入ってザックを降ろす。女性陣の着替えが終了した時点で管理棟に集合、OTJ 手作りの煮物から始まり、各自が持ち寄った肴で酒も進む。登山口でお会いした下越山岳会の川崎・小野さんも参加する。

17:00 過ぎに無線で、AXL と EBC は門内小屋に泊まると連絡があった。

【9 月 01 日】

翌日はうって変わり好天に恵まれた。AXL・EBC を待つという VCK を置き、05:56 梅花皮小屋を出発する。登山道周辺はウメバチソウ(盛)・イワインチン(盛)・タカネマツムシソウ(終)・コゴメグサ(盛)・シラネニンジン・ミヤマアキニキリンソウ・ヨツバヒヨドリ・ハクサントリカブト(盛)に包まれている。

06:18 梅花皮岳山頂を通過する。ミヤマアキノキリンソウ・エゾイブキトラノオ・ニッコウキスゲ・ヤマハハコ・ヤマトウバナ・ミヤマキンポウゲ・ハクサンボウフウ・イイデリンドウ(僅)・タカネナデシコ・コゴメグサ・ハクサントリカブトと枚挙に暇がない。

06:41-45 烏帽子岳山頂で休憩を取る。今日は 09:00 に御西小屋集合である。これから通る稜線に眼をやる。ミヤマキンポウゲ・オタカラコウ・エゾイブキトラノオ(盛)・ダイモンジソウ・ヤマハハコ・ミヤマコウゾリナ・ハクサントリカブト・ミヤマアキノキリンソウ・オヤマリンドウ、期待通りの花畑である。

09:53 クサイグラ尾根分岐を通過する。ハクサンボウフウ・コバイケイソウ・ヨツバシオガマ・ミヤマキンポウゲが咲いている。

08:02-16 天狗ノ庭で休憩する。此処は 23 日の作業予定地である。主稜線上から見る大日岳が素敵だ。天狗岳に登った

瞬間、目の前に広大な山稜が広がる。御西小屋は眼と鼻の先だ。ニッコウキスゲ・コバイケイソウ・シラネニンジン・ウサギキクを横目に、今回作業する荒廃した登山道を登り、08:58 御西小屋に到着した。
小屋には既に何人もが集まっていた。管理人の IWU に挨拶をして、荷を降ろす。一息ついたところで、ニュージェックの川端さんが中心となって作業の打合せを行う。
天狗平の流水コントロール研修に参加したメンバーは、何処をどのように施工するか調査設計班、その他は種子採取班とした。先ずは登山道を観察しやすくするために、水の道に白い紐を這わせる。これを見て淵と瀬を判断し、何処にどのような石組みを施工し、水の方向を変え、水力を弱め、岸の崩壊を防ぎ、河床の侵食を食い止めるか。さらに、侵食の度合いや傾斜を見て、排水路の場所やダムの数を決めていく。
大まかな設計図を頭に描いたところで、全員が集まる。種子採取班も戻り、ショウジさんから熟して使用できそうな植物の説明を受けるが、正直言って私にはちんぷんかんぷんである。
何時の間にか VCK・AXL・ECB、小白布から登ってきた清水さんを含めて小国班は 10 名になった。下越山岳会 2 名、亀田山岳会は本間さん以下 4 名、ニュージェック 4 名、環境省 2 名(後から 1 名)、置賜森林管理署 1 名、中条山の会 1 名・・・
小国班の昼食は ECB・VCK による温かい素麺、これで元気が出た。昼食後、植物班は熟した種を求めて天狗ノ庭に向かった。残ったメンバーを 5 班に分け、研修経験者を班長にして本格的な工事を始める。
古い御西小屋の基礎がそのまま残されていた。見るとコンクリートの枠に下界で形を整えた花崗岩を貼り付けただけのものである。協議の上この石も使うことにした。手ハンマーで叩くと簡単にはがれたが、一輪車でもあればともかく、これを現場まで運ぶのが問題。トイレの囲い板に目をつけた。板に石を乗せ二人がかりで運んだ。重い石は板が折れると困るので、板を十字に組み中心に石を乗せ 4 人がかりで運ぶ。
ダムは、場所を決めたら基礎になる大きな石を両岸に、真ん中にはやや大きな石を埋める。真ん中に埋める石を上流に配置すると自然に上流に倒したアーチ型になる。3 個の石の間に、上流から力が加わっても動かないように、石をうろこ状に置く。このとき、両岸の石を高くしないと水の浸食を受けるので留意する。次に石の間に上流側から小さな石を詰めて手ハンマーで叩き、さらに砂利を詰めて水が流れないようにする。下流部は水が溜まるプールにして、底には侵食を洗掘しないように水叩きとし平らな石を置く。　水の流れを考えて特定の岸に集中しないようにするが、水の当たる淵の岸には石を並べて護岸とした。
前日の強い雨のときに現場を観察していた川端さんの助言と指導によると、この登山道は斜面になった草原を横切るように下っているので、上の草原から水の道ができて流れ込んでいたとのことである。その痕跡を探して上から来た水が登山道を横切って下の草原に落ちるよう、横断する水路を 2 箇所作り、登山者が歩きやすいよう踏み石を配置した。
川端さんが「昔、この辺りに池糖はなかった？」と尋ねられたが、私が山を始めた頃、小屋の周囲は既に幕営により破壊されていた。むしろその後に幕営エリアを制限することによって徐々に回復が進んでいる状態である。ただ、この付近を弥陀ヶ原と称したと聞いており、御西岳周辺と同じような地形と植生を持つ所には小さな池糖が散在していると答えた。彼女の指摘で周辺を歩いてみると、昔の池糖が踏圧により侵食された部分が決壊して、保水機能を失っていることが一目瞭然であった。
つまり昔は一体が池糖の散在する草原になっており、雨を一時的に蓄え、周囲の草原に浸透するように広がりを持って流れ、集中することはなかったのである。そう言えば、昨日、雨の中、梶川尾根の草原を歩いていた時、池糖の周りの草原が水を張った水田のようになって雨を受け止めていたことを思い出した。
そこで池糖の崩壊した部分に土嚢を置いて保水機能の再現を試みることにした。一体は裸地が縦横に走っており、本来は小さな池糖であるものが、繋がってしまっている。ともあれひとつの試みとしては価値があると思えた。
現在御西小屋の水場は実川源頭の清水を使用しているが、以前は桧山沢源頭の融雪水を利用していた。このため沢に下る道が残っている。ここに排水すると洗掘が進むと思われたので、排水は別な場所に求めた。いつかはこの旧水場に下る道や、途中の幕営跡にも手をかけたいと思った。
夕食は小屋が狭く天気も良いので各団体毎に固まって外で食べた。具沢山の鍋には、鮭・チクワ・豆腐・・・たっぷりのミズ菜も入ってみんな満足である。
宿泊を予定していた一般登山者が切合小屋に変更したとの情報が入り、小屋は私達の貸切になった。そこで 2 階を会場にして、全員が車座になり大交流会となった。最後は数人で小屋を抜け出し、満天の星に包まれ、新潟の夜景を見下ろして夜が更けていった。

【9 月 02 日】
朝食を終えると、今日中に帰るメンバーが出発した。